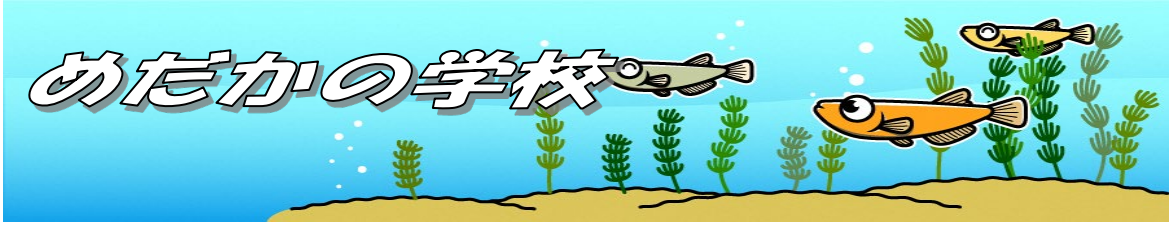
今日に満足し，明日を楽しみに待つ学校生活を　　令和５年９月 29 日　NO.121



文 ： 西岡　ゆき子

“伝説の新高梨ジャム作り”がスタート

2004 年，高知市立小学校の知的障害特別支援学級から，「新高梨ジャム（以下　梨ジャムと記す)」が誕生しました。のち，本市の学校給食で提供するまでに発展しました。

当該学級の取り組みの初年度は，地域の方からいただいた新高梨でジャムを作り，PTA バザーや地域の公民館で販売し，瞬く間に売り切れました。翌年度から梨農園に出向き，受粉作業や袋かけ，収穫作業をし，「梨ジャム」を作りました。味や食感にもこだわり年々改良を加え，生活単元学習「梨ジャムを作り　販売しよう」は，毎年の定番単元になりました。

2007 年には，子どもたちは応援してくださる教職員，給食調理員さんと一緒に 1,000 人分の「梨ジャム」を作り，全校のみんなに食べていただきました。取り組みの手応え，充実感は学校生活全般にわたり，子どもたちの意欲を高め，生活の質を上げていきました。

2009 年，学校から市教委へと話は進み，この「梨ジャム」の製造を NPO 法人が受け持つことになりました。学校給食として本市の子どもたちへの提供は，今日まで続いています。

本年度，コロナ感染予防は続いているものの，学校は通常の教育活動が戻ってきました。新高梨収穫の時期になり，地域の方々が「梨ジャム」を待ち望んでいるとの声が新しい担任まで届き，当該学級は“伝説の新高梨ジャム作り”に着手することにしました。

９月の土曜日，新しい担任と当時の担任，そしてわたしたちと一緒にレシピ片手に，取り組みがスタート。どの子も主体的に活動できるように，活動の流れや道具の工夫，活動内容や活動量等も検討を進めています。９月 29 日，子どもたちと試食作りです。楽しみです。

なお，2010 年梨農家さんが一本の梨の木を「学級の木」と名付け，その木に実を付けた梨は学級にすべて提供してくださるようになりました。

地域とつながり，地域の特色を生かした力強い生活単元学習の実践は，全国の「特殊教育学会」でも高い評価をいただきました。

秋の川

こんなところに
こんなにすみきった
秋の川があった

たたずんで
この子は
ちいさなかおをうつしては
水をすくっていた

のぎく寮　あるじ
近藤　益男（えき）